

## 国際色豊かなバイリンガル ボランティア団体 ハンズオン東京

ハンズオン東京

東京に住む外国人と日本人が互いに協力し、ボランティア活動を通じて地域社会に貢献できる場を提供するのが目的。インターネットからのサインインで誰でも始められる。www.handsontokyo.org



ハンズオン東京の中心メンバー。右から、理事の千葉マージョリーさんと同じく理事の比嘉文さん、ディレクターのマルセラ・カンボスさん

### プロジェクトのセットアップと 入念なオリエンテーションを実施

「ハンズオン」とは、80年代後半にNYで創立されたボランティア団体。多額のお金を使わなくても、自分たちの「時間」の提供で地域貢献を果たせるという考えのもと、全米には360カ所の活動拠点まで広がった。日本支部である「ハンズオン東京」は06年の12月にスタート。

「日本に長く住んでいて感じることは、日本人はボランティアに関して決して無関心ではない。でも、取り組み方がわからないし、お互いに譲り合って遠慮してしまう……。だから、「ハンズオン東京」は日本人向けに「一緒にボランティアをする」ことをキーポイントにしました。プロジェクト内容は事前にすべてセットアップされています。インターネットからサインインするだけで、どなたでも参加していただけるんです」と理事の千葉マージョリーさんと理事の千葉マージョリーさん。「われわれの特徴として、「プロジェクト・コーディネーター」という存在があり

ます。ひとつのボランティア活動を行う前に、受け入れ先との連絡や交渉を密に図り、お互いが楽しく過ごすためにはどうすればいいかを話し合います。ボランティアの参加者に対してはオリエンテーションを行い、すべきことやしてはいけないことなどの注意点を伝えていきます」と理事の比嘉文さんが続ける。

このプロジェクト・コーディネーターによるオリエンテーションにより、ボランティアする側も相手側も安心して大きな信頼関係が生まれる。じっくりと時間をかけながら、現在は9つの福祉施設や老人ホーム、児童養護施設でさまざまな活動を実施中。また、「テ

年に一度、「デイ オフ サービス」と称し、一日で5〜8個のプロジェクトを行うイベントもある。昨年は260名が参加した。写真提供：ハンズオン東京



「ハンズオン東京」と題し、チャリティオークションのパーティなども開催し、話題を呼んでいる。

「ボランティアの必要性と楽しさをもっと伝えたい。マイアミ支部では1年間で3万時間の活動時間があつたのに対し、東京は3500時間。可能性はまだある。これからは、環境問題や動物保護なども視野に入れてプロジェクトを増やしたいですね」（千葉さん）

「ボランティアは最初のきっかけが大切。ひとりで始めようとせず、誰かを誘って参加してください。一度やりはじめたら、どれだけ楽しいことなのかすぐにわかりますよ」とディレクターのカンボスさん。ボランティアが気軽に楽しくと理解してもらうことで、日本でのさらなる普及を目指している。

